

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	二次交通でのマイカーに頼らない遠山郷観光の確立事業
事業主体 (連絡先)	遠山郷観光協会 飯田市南信濃和田548-1
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,167,372 円

事業内容

当地域は南信州地域を代表する観光地の一つであるが、95%以上がマイカー・バイク・ツアーバスによるものである。狭い道路区間での渋滞トラブルの軽減等を目的として、地域内を循環する2次交通シャトルバスの運行を行った。紅葉の繁忙期の手前である9月中旬から11月上旬までの土日祝19日間9人乗りシャトルバスを稼働させた。



【 二次交通運行の様子 】

【目標・ねらい】

- ① 秋の繁忙期の渋滞緩和
- ② 公共交通手段の確立
- ③ 滞在時間の増加に伴う宿泊をはじめとした経済循環

事業効果

7-9月の台風等による影響で、予定運行経路の変更・拠点施設の営業休止に伴い十分な告知ができなかった。台風による土砂崩落による道路通行止めの影響で狭い道路のピストン輸送が中心となり9人乗りのジャンボタクシーでの運行となった。

① 期間中52名の利用がありうち8割近くの39名はマイカーで道の駅まで来訪し、バスへ乗り換えた方だった。紅葉ピーク時にはバスの予約は満員となり、渋滞緩和への一定の見通しは得られた。しかし、今回はバスの定員が少なく渋滞緩和までは達しなかった。

② 運行スケジュールを組む中で、飯田駅からの乗合バスとの接続・平岡駅からの乗合タクシー接続を優先した。その結果、公共交通の乗り継ぎの利用者は13名であった。うち3名は外国人だった。

③ 事業開始前に二次交通拠点施設のひとつが今季休業となった為、期待していた宿泊・購買効果は少なかった。しかし、当地域に前泊しての利用者は15名ほどあり多少の効果は得られた。

※自己評価【C】

【理由】

台風による土砂崩落等の影響で大幅な計画変更が余儀なくされたものの、52名の利用があり一定の効果が得られた。うち13名が公共交通乗り継ぎの利用者、3名は外国人だった。

今後の取り組み

現行の方法では事業に対する資金回収率は大きく見積もっても20-30%であり、財源の確保が当面の課題である。しかし、近年顕著となってきた 若年層のマイカー離れ、旅行者の高齢化、外国人旅行者の増加、公共交通手段の問い合わせ増加 へ対応するため、「二次交通の実施」は当地域の最重要課題として位置付けている。

将来的には、分杭峠シャトルバスのようなマイカー規制等の可能性を視野に入れながら、渋滞緩和・公共交通の確立・地域内経済循環を目指して継続していきたい。